

2021年ラウンド2レース6 大草りき選手がポール・トゥ・ウィンでもてぎでの週末、2勝目を達成！

2021 Formula Regional Japanese Championship(フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ)のラウンド2レース6の決勝が9月5日(日)にツインリンクもてぎで行われ、ポールポジションからスタートした45号車の大草りき選手(PONOS Racing)がしっかりホールショットを決め、そのまま逃げ切り、もてぎでの今週末2勝目を挙げました



ラウンド2の最終戦、レース6も、レース5同様に曇り空とはなったもののドライコンディションとなりました。スタートではポールポジションの大草選手が好ダッシュを決めて先頭でしっかりホールショットを決め、2番手争いは28号車を駆る古谷悠河選手と8号車の三浦愛選手(ARTA F111/3)がサイドバイサイドのバトルを繰り広げましたが、古谷選手がポジションを死守しました。

0.6秒の差をつけて1周回目を終えた大草選手ですが、2周回目以降は古谷選手がファステストラップを連発し、0.3秒後方まで迫りました。しかし、横に並びかける展開には至らず、2人のドライバーでベストラップを更新し合う緊迫したレースを繰り広げました。

トップを行く大草選手は14周目に1分49秒162を記録して、後ろとの差を広げにかけりましたが、古谷選手も肉薄し、残り2周のところ1分49秒110のファステストラップをマーク。最後まで逆転を狙う走りを見せましたが、大草選手が最後までミスのない走り逃げ切り、レース4に続き今週末2勝目を挙げました。2位には0.675秒差で古谷選手、3位には三浦愛選手がつけました。

マスタークラスでは、クラストップからスタートした34号車の三浦勝選手(CMS F111)が終始安定した走りを見せてクラス2連勝を記録。2位には39号車の田中優暉選手(ASSCLAYIndサクセスES)が続きました。田中選手はレース5でマシントラブルに見舞われリタイヤとなりましたが、チームの懸命な修復作業により、無事レース6への出走が叶ったなかでのクラス表彰台獲得となりました。クラス3位には7号車の畑享志選手(F111/3)が入りました。

レース6 優勝 大草りき選手コメント

「これまで2レースともスタートで失敗してしまいましたが、今回やっと決めることができました。1コーナーをトップで通過したときは本当に気持ちよかったです！トップでレースを進められたので自分でペースを作り、気持ち良く走れました。ただ、古谷選手がずっと近くにいることは分かっていたので、めちゃくちゃキツかったです。古谷選手は経験もあるので、それがアドバンテージになっている部分もあったと思いますが、今週末はそれに負けないように走るのが目標だったので、それを達成できて良かったですし、ドライでもウエットでも速いところを見せられたので、それも良かったと思います」

レース6 マスタークラス優勝 三浦勝選手コメント

「今回もスタートダッシュを決められたのが良かったです。でも田中選手とタイム的には近かったので、最初は競りながらのレース展開となり、少し差が広がってからは、マージンをとって安全に走って行きました。このレース6ではクラストップのスタートから優勝を狙っていたので、その通りにいけて良かったです。得意なもてぎで勝つことができ嬉しく思います」

以上



大草りき選手とチーム



三浦勝選手